

憐み深く、窮民の力たらずして治すべき病の死にいたるを察し玉ひ、朝鮮國より人參の種及び苗を御取よせ、御手づから御園に御試あつて、其後は命を以て専らこれを作らせられ、次第に蕃茂し、今世上に御種人參として自由に用るもの此なり、其氣味、朝鮮大人參よりは薄といへども、元來朝鮮の種なれば、他の人參に大に勝れり、老夫、數年これを用て、その効驗の著しきも見る、今卑賤貧窮のものまでも、その價の下料なるをもつて、心やすく疾を救ひ、忠臣は主君の命を助け、孝子は親の壽を益、誠に仁君の恩澤、萬民に潤ひ流、窮民を御憐みの御慈悲をおろそかに思ふべからざる事なり、

〔醫事或問〕下本邦吉野人參は、痞鞭に用ひて効あり、故に、余爲則吉益は、和參を用ひて、朝鮮參を用ひざるなり、昔は、和漢ともに人參味ひ苦しといふ、本草綱目にも、雷公桐君味ひ苦しといへり、日本にても、天曆帝の朝、源順の和名抄に、人參の和名、くまのゑとあり、熊膽の味ひ苦きゆへに、くまのゑと名付たるなり、然るに今の朝鮮人參は、味ひ甘く製したるなり、製せずして甘しといふは、偽なり、用ゆべからず、本邦の人參、慎で必製すべからず、本味をそこなふ時は、藥効なし、且又積氣氣虛などとは、いひがたし、いかんとなれば、氣は形なきものなり、何にても、其物あれば、皆氣あり、人生て居る時は、氣あり、死すれば、其氣絶ゆ、是天地自然にして、形なく、造化の司る所ゆへ、人の積べきものにあらず、

藥種

〔運歩色葉集〕屋藥種

〔易林本節用集〕器也藥種

〔尺素往來〕和丹兩家之醫師等、雖爲末代、其術新播、効驗候哉、仍隨分秘藏之藥種、其所現在者、人參、龍腦、麒麟、竭、南木香、胡椒、縮砂、良姜、桂心、甘草、川芎、當歸、巴豆、大黃、雄黃、虎膽、辰砂、并煉密等、少分進之候、皆新渡之濟物候、山藥、牛膝、牽牛子、香附子、紫蘇、荊芥、乾姜、厚朴、苦辛、茯苓、橘皮、白朮、地黃、鹿茸、石灰、硫